

別記様式第1号（第5条関係）

総合計画審議会 会議経過要旨

会議名	第2回木津川市総合計画審議会		
日時	平成29年11月28日（火） 午後2時～午後4時10分	場所	市役所5階 全員協議会室
出席者	<p>委員 ■：出席 □：欠席</p> <p>（公募委員） □尾崎 忠教委員、 ■西村 正子委員、 ■森田 雄巳委員 (識見委員) ■今里 佳奈子委員、 ■真山 達志委員 (委員) □今西 勝美委員、 ■北島 宣委員、 ■久保 恭子委員、 ■小松 信夫委員、 □中川 雅永委員、 ■西井 貴信委員、 ■福井 さなえ委員、 ■福井 康裕委員、 ■松本 耕考委員、 ■山本 勇人委員</p>		
	<p>その他出席者 株式会社地域未来研究所 田渕 誠一、貞松純子</p>		
	<p>庶務（事務局） 福島政策監、武田マチオモイ部長、奥田学研企画課長、茅早課長補佐、藤木主任</p>		
議題	<p>1. 開会 2. 議事 (1) 報告事項 前回の審議会結果 (2) 確認事項 ①まちづくりに関する市民・中学生アンケート調査結果 ②第1次木津川市総合計画施策WT評価結果 (3) 審議事項 第2次木津川市総合計画におけるまちの将来像 (4) その他 次回審議会開催日程について 8. 閉会</p>		
会議結果要旨	<p>1. 開会 事務局から開会を宣言した。</p> <p>2. 議事 (1) 報告事項 ・前回の審議会結果について 資料1、資料1-1、資料1-2、資料1-3、資料1-4、資料1-5に基づき、事務局から前回審議会の結果について説明し、報告を行った。</p>		

	<p>(2) 確認事項</p> <p>①まちづくりに関する市民・中学生アンケート調査結果 資料2－1、資料2－2に基づき、事務局から、まちづくりに関するアンケート調査結果について説明し、確認した。</p> <p>②第1次木津川市総合計画施策WT評価結果 資料3に基づき、事務局から、第1次木津川市総合計画施策WT評価結果について説明し、確認した。</p> <p>(3) 審議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2次木津川市総合計画におけるまちの将来像について 資料4に基づき、第2次木津川市総合計画におけるまちの将来像の考え方について説明し、資料4－1で委員にまちの将来像を提案いただくことを依頼した。 <p>(4) その他</p> <p>①次回審議会開催日程について 第3回審議会は、平成30年3月上旬に開催の予定。日程が決まり次第連絡を行う。</p>
会議経過要旨 ◎会長 ○委員 ●事務局	<p>1. 開会 会議結果要旨のとおり。</p> <p>2. 議事</p> <p>(1) 報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の審議会結果について 事務局から、前回の審議結果について説明し、報告を行った。 なお、主な意見・質疑は次のとおり。 <p>○木津川市は歴史遺産や文化財が多く残るまちとして、それをどう活かしていくかが重要。教育委員会や文化財保護課など関係課も一緒に将来像を考えていくべきである。加茂地域は人口減少が進み、休耕地や空き家も増えつつあるが、京都府の歴史的自然環境保全地域に指定されている。これからは保全するだけではなく活用を考えることも必要である。 京都古文化保存協会が毎年実施している「京都非公開文化財特別公開」に、今年度は南山城地域の5か寺も含まれ、全国からの多くの人が訪れ</p>

た。しかし、1日に多い日で800～900人、平均500人の来訪者が市内を訪れたにも関わらず、市役所や観光協会としての関与がなく、市民も知らないという状況であったことが非常に残念であった。この機会に市や特産物の紹介をするなど、市も参加して、ネットワークをつくり、受け入れ体制を整えるなど、チャンスを逃さないことが必要と考える。

◎自然環境や歴史文化資源は保全や保護と同時に活用することが必要なので、文化部門と観光・産業・経済振興がバランスよく連携して実施していかなければならない。実施主体として、国や府、市の行政、地域住民、NPO、ボランティア団体の協働が重要であるので、人々のネットワークを築いていくということを意識していかなければならない。

一部の組織だけが頑張っていて、ネットワークができていないので、チャンスを活かしきれていないという反省は、計画だけでなく、日々の活動の中でも反映させることができればと考える。

○待機児童については、希望しても兄弟で同じ保育所に入れないといった状況や、生まれた月によっては既に次年度の保育所の申し込みが終わっているといった状況等も現実としてあるので、データとしては把握できないかもしれないが、よりきめ細やかな子育て支援を考えていくべきある。

◎待機児童ゼロという統計上の数値だけを見て、この分野が充実していると考えるのは拙速であるというご意見であろう。子育て世代など若い世代への支援の充実は、市の大きな方針であるので、国の基準を満たしているかどうかではなく、市民の生活実感レベルでの充実を市として進めていくということを計画に盛り込んでいければいいのではないか。

○木津川市は子どもの数も年々増加し、宇治市に次いで児童・生徒数が多くなっているが、学校によって児童数に大きな差が生じてきている。教育環境は学校でどうこうできるものではなく、地域の発展や活性化にも関連しているので、そのあたりの解消も目指しながら、計画を考える必要がある。

○木津川市の生涯未婚率は、国や府に比べかなり低いが、城山台や梅美台、州見台などで増加している子育て世代に引っ張られているためであろう。しかし、木津川市の生涯未婚率も全国と同様に増えつつあるので、婚活事業など、今から対策を考えていく必要があるだろう。

全国や府の傾向に比べて、男女の比率差が少ないが、その要因は何なのか検討する必要があるのでは。

◎少子化を食い止めるための結婚促進であると思うが、結婚の促進と少子化の減少は必ずしもイコールにならないところもある。先進諸国で合計特殊出生率が増加しているところは、必ずしも未婚率の減少によるものではなく、婚外子の増加が要因となっている。時代の流れとして、今後

はそういう社会的背景も視野に入れて考えていく必要があろう。

(2) 確認事項

①まちづくりに関する市民・中学生アンケート調査結果

事務局から、まちづくりに関する市民・中学生アンケート調査結果について、説明を行った。

なお、主な意見・質疑は次のとおり。

○中学生アンケートについても、学校ごとに集計すれば、地域差が出るのではないか。

●中学校ごとに回収を行っているので、学校ごとのクロス集計を行い結果を提供する。

②第1次木津川市総合計画施策WT評価結果

事務局から、第1次木津川市総合計画施策WT評価結果について、説明を行った。

なお、主な意見・質疑は次のとおり。

○リサイクル研修ステーションは、老朽化により来年9月で閉鎖になると聞いている。こういった施設は環境問題を考えていく上で、今後更に重要なので、閉鎖し、なくすのではなく、何らかの形で残すことが必要である。

●厳しい財政状況を踏まえて、全ての公共施設の見直しを行うこととしている。リサイクル研修ステーションについても、建物ではなく、その機能を続けていくことで、幅広い環境問題の解決を図っていくことになると考えている。全ての公共施設についてゼロベースでの見直しを行っていくことで、持続的な財政運営を図っていきたい。

○WT評価結果は自己評価であり、これで評価として確定したものではないので、ご意見等があれば、事務局に伝えていただき、担当課にフィードバックしていただくこととしたい。

○施策目標4-1の子育て施策の評価結果が全て満点であることに、違和感を覚える。内部評価は外部評価よりも厳しいものであると思うので、再度見直しをされた方がいいのではないか。

○満点評価については、審議会での意見を担当課に意見があったことを伝えていただくこととしたい。

現段階では中間報告ということなので、第1次評価が確定した段階で議論できればと思う。

(3) 審議事項

・第2次木津川市総合計画におけるまちの将来像について

事務局から、第2次木津川市総合計画におけるまちの将来像の考え方について説明し、委員にまちの将来像を提案いただくことを依頼した。

なお、主な意見・質疑は次のとおり。

◎将来像は総合計画のキャッチコピーのような位置付けである。個人的意見であるが、将来像が本当の意味でのまちの将来像になっていないことも多く、自治体名を隠してしまえば、どのまちの将来像かわからないというのが実情である。短いフレーズの中に全てを盛り込むのは不可能ではあるが、木津川市の特徴や目指すまちのイメージを表現できれば望ましい。

○第1次計画の将来像は旧加茂町とあまり変わらず、「薰る」では動きがなく、人が見えない。新住民と旧住民の数が半々になる時代になるので、人の動きが交わる、交流で文化が生まれるということがわかるような将来像になればいい。

◎人が動き、活動してはじめてまちづくりができる、まちも変わるので、主体をはっきりさせるのが必要であるというご意見であろう。

○市役所は、従業員規模からみれば市内のトップ企業である。行政と市民の協働によるまちづくりといったように、今まででは役所が取組みを後押ししてきたが、これからは役所が前面に出て、市民に利益還元していくことを明確にしてまちづくりに取り組んでいくべきである。そのためには、市民を巻き込んでいくリーダーとなる職員を育てていく必要がある。そうすることで推進力のあるまちになるのではないか。

○職員がどんどんまちに出ていくことが大事である。活動する市民である職員がたくさんいると、木津川市が元気になるだろう。

○最近は、行政が市民に押し付けすぎるというところもあると個人的には思っている。行政にしかできない役割があると思うので、計画の中でそういうことをきちんと示すことも必要であろう。

○人口が増加しているまちは全国でも少ないので、世界に発信するくらいの勢いを持ってほしい。木津川市はどこにあるかあまり知られていないので、「近畿の中心」「近畿のへそ」といった言葉を盛り込んではどうか。

○将来像であるので、将来を担う子どもたちにも考えてもらい、将来像検討のヒントにすればいいのではないか。

○子どもたちが木津川市をどれくらい理解しているのかという疑問もあり、子どもたちの希望的未来になる懸念もあるが、おもしろいアイデアだと思う。

- 小学校や中学校でのアイデア募集については、教育委員会と相談しながら検討したい。
- アンケート結果の中にも将来像の答えがあるかもしれない。地域別や年代別に加え、転入者が何を求めて来られたのか、どういったことに力を入れてほしいのかということがわかるように、クロス集計を行ってはどうか。それにより、より具体的なキャッチフレーズを考えることができるのでないか。
- クロス集計については、近いうちに郵送等で送付させていただく。
- 市として何に重点を置いてまちづくりを進めていくかと、市民の要望との兼ね合いで方向性は決まっていく。市として子育て・教育に力を入れているのが木津川市の特徴だと思うが、市民が何を求めているのかはアンケート結果からわかるので、両方を兼ね合わせて、将来像を考えていただくこととしたい。
- 子どもが少ない地域もあり、旧地域では小学生がいないところもある。市の考え方は子育て・教育に重点を置くことでれば、地域ごとの子どもの増減等がわかる資料があれば。
- 木津川市は人口増加、豊かな自然・文化、学研都市としての科学技術の推進などポテンシャルのあるまちであり、日本の未来を牽引するまちになりえるだろう。一方で、過疎地域と人口が増加している地域があることをどう解決するのか。その点でも、これから日本を引っ張っていくことができるのではないか。
- 自然、子育てが市の特徴であり、市民が望んでいるものである。また、過疎化地域で活動している方と転入世帯の交流により新しい文化がつくられる可能性がある。
自然と触れ合える体験型学習が望まれているが、市の自然環境を考えた場合にも、現実的であり可能性がある。3世代交流、環境保全、環境教育、子どもの心を育むといった面でも、これからの未来を担う子どもたちや新しい文化をつくりていけるだろう。長野県や鳥取県で始まっている「森のようちえん」を市でも実現できればいい。
- 子育てや環境について、市としての重要度も市民の要望としても高いというのが、ひとつの特徴としてあるだろう。それにとらわれることもないが、そういったことも念頭に置いて、まちの将来像を考えていただき、事務局に提出をお願いしたい。
- アンケートのクロス集計結果が送られてくるということなので、締切期限の12月22日を少々過ぎても構わないが、期限を過ぎる場合は、事務局に一言お声掛けをお願いしたい。
- イタリアトリノの都市再生では、市民が戦略計画を策定し、フィアットのまちからスポーツと文化のまちへと変貌を遂げた。将来像は単なるキ

	<p>ヤッチフレーズではなく、市民の希望のキーワードであるので、将来の木津川市が見えるようなものになるといいと思う。</p> <p>(4) その他</p> <p>①次回審議会開催日程について 会議結果要旨のとおり。</p> <p>8. 閉会</p>
その他の 特記事項	